

信樂

ー土の賦^ふ

十二人展Ⅲ

祈りの系譜

令和4年1月23日(日)～29日(土)

松尾芭蕉の俳諧の理念に、「不易流行」という言葉がある。伝統を踏まえつつ、一方では新しいものを取り入れることの大切さを説いたものだ。この「不易流行」は、あらゆる芸術に通じる理念である。「不易」とは、時代の新古を超越した不変なるものの意味で、常に変わらない真理をいう。一方「流行」とは、その時々に応じて変化していくものの意味で、時代の流れを読まないと真理も受け入れられないということだ。だから、このどちらが欠けても俳諧は成立しない。つまり、「不易」と「流行」の根本は一つであり、芭蕉はそれを「風雅の誠」と呼んでいる。陶芸の場合も同じことが言える。

陶芸家の加藤清之は、不自然なものを一つ一つ排除していくと、自分が求めている自然な形に出合うという。文章を書くという作業も同じで、言葉とは、言葉を大事に使うことである。芸術は、究極的には「祈り」であると言ってもいい。私は、この「祈り」を「不易」と捉えている。七十年の歳月を経て、やっと辿り着いた世界である。

それでは、「信楽―土の賦 十二人展Ⅲ 祈りの系譜」をご紹介します。

青木寿美子の《茶碗・きせと》は、「うつわに込めるこころの旅支度」をテーマに、心の風景を描いている。コロナ禍で自由は奪われたが、本当にしたいこと、本当

にしなければならぬことを、見つめ直すいい機会になったという。そんな中から生まれた茶碗である。

大西左朗の《信楽水指シ》は、彼が得意とする楕円形の水指だが、その膨らみに両線を作ること、影が出来たり、釉薬が流れたりして、微妙な変化を生んでいる。信楽独特の明るい火色に淡い緑釉が掛かり、水指の内部には二筋のビードロが流れている。

奥田陶生の《風に立つ》を眺めていると、嵐を鎮めようと無心に祈る人の姿が眼に浮かぶ。その不動の精神が、やがて巖と化し、強靱な造形となったのであろう。花入としてはかなり重いが、「絶対的不動心で新たな時へ」には、そういう意味が込められている。

神崎秀策は、普段は小振りな茶碗が好きだが、今回は大振りな茶碗にしたという。小振りな茶碗では合掌の手にはならないからだ。《信楽茶碗》は手を大きく開いて茶を飲む姿をイメージしたもの。側面には窯変が出来、見込にはビードロが溜まり、茶筌も振りやすい。

小牧鉄平の《炭化幾化文彩色器》は、須恵器などの台付の造形を受け継ぐもので、一種の祭器と見てもいいかも知れない。幾化文も呪術的な意味合いを含めた文様で

ある。「古代想起を模索し表現する」は、この作家が以前から挑戦しているテーマでもある。

迫能弘の《信楽土球》は、コナラの大きな木の下に寝かされていた信楽土。今年はドングリが豊作だったので、破れたシートからドングリが入り込み、その土をそのまま練って球体にし焼いたものだ。土に託された祈りを、焼くことで永遠の形にした作品である。

篠原希の《シノギ茶碗》は、大きな石の入った信楽の原土を使って制作した作品である。手びねりも出来ないもので、まず叩き込んで塊にし、中はくり抜き、外は切り出して茶碗にしたそうである。土に従って、土が求める形を作り、焼き上げたシノギの茶碗である。

高橋楽斎の《信楽花入》は、朝の散歩で出合った信楽の風景だという。湧き水に濡れた苔むした岩の雰囲気を出すため角材で叩き表現した文様が、思わぬ効果を生んでいる。上部の緑釉と下部の黒い焦げの対比や、小さな花を生けるために付けられたボケットも面白い。

高間智子の《花想華（かそうか）》は、花と華の間に希望、祈り、想いを込めることにより変化していく様を表現した作品である。外側が二重構造になっているのは、そう

いうことであろう。日々の積み重ねや想いを装飾を通して掘り起こし、残したいという。

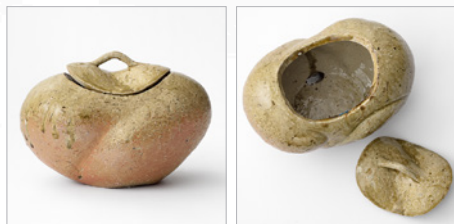
谷穹の《信楽 長頸壺》は、令和二年に益子陶芸美術館の「健在する日本の陶芸」展に出品された作品で、谷が、信楽という意識を新たに構築してゆくために挑戦した大作である。信楽独自の火色に灰が被り、微妙に変化する複雑な景色を醸し出している。

津守愛香の《猫童女坐像》は、祈りの小さな仏像をイメージして制作した作品である。津守の家にも、ふくふくとして可愛らしいおじいさんおばさん猫がおり、子どもの手足もふくふく可愛いという。劉生の麗子坐像ならぬ、津守の猫童女坐像である。

古谷和也は、やつと楽しみなが茶碗が作れるようになったという。この《信楽窯変茶盃》は、光悦の赤楽茶碗「乙御前」を意識したもので、手びねりで成形している。穴窯で二度焼き締め焼成し、器肌が緑や青、白、黒、黄と窯変し、変化の多い景色となっている。

森 孝一

(美術評論家・日本陶磁協会常任理事)



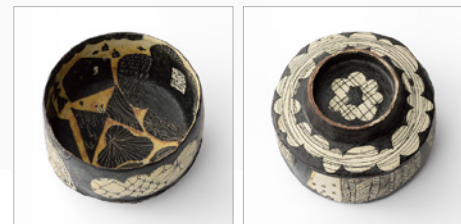
大西左朗

Onishi Satoki

水指シを制作している時は、多分、独り言がとて多くなっていると思う。
自覚するくらいだから。。
わくわくと楽しい対話を時空を超えてしているんだと思う。

昭和 39 年 滋賀県信楽町生まれ
昭和 63 年 東洋大学 社会学部 応用社会学科 卒業
平成 5 年 京都府立陶工高等技術専門学校 図案科 修了
平成 18 年 第 17 回 秀明文化基金賞
平成 19 年 現在形の陶芸 萩大賞展 (山口県立萩美術館)
平成 20 年 第 1 回 いまどき、しからき、かやりき展 大賞
平成 25 年 信楽焼伝統工芸士 (総合部門) 認定
平成 30 年 第 11 回 現代茶陶展 入選
第 3 回 日本陶磁協会奨励賞 関西展 入選

信楽水指シ
W26.0×D17.6×H17.6cm



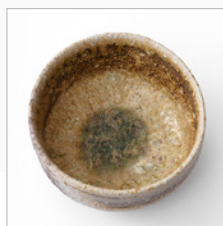
青木寿美子

Aoki Sumiko

うつわに込める こころの旅支度。

愛知県名古屋生まれ
愛知県立芸術大学 美術研究科 大学院 陶磁科専攻 修了
平成 8 年 信楽にて作陶をはじめる
平成 11 年 信楽陶芸展 入選
平成 12 年 築窯
国際クラフト展伊丹 入選
平成 14 年 国際陶磁器展美濃 入選
平成 20 年 国際陶磁器展美濃 入選
平成 25 年 長三賞陶業展 長三金賞 (グランプリ)
平成 26 年 第 25 回 秀明文化基金賞

茶碗・きせと
φ13.0×H9.0cm



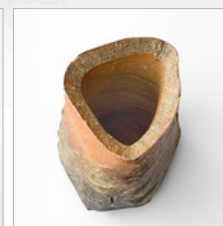
神崎秀策

Kanzaki Shusaku

今回のテーマを頂いた時、合掌する姿がまず頭の中に浮かびました。
掌中に茶碗があり、お茶をいただく姿が合掌しているような姿になるよう
大ぶりの茶碗を本展に合わせて制作しました。

昭和 58 年 滋賀県信楽町生まれ
平成 16 年 京都府立 陶工高等技術専門学校 修了
平成 24 年 第 59 回 日本伝統工芸展 入選
平成 25 年 第 60 回 日本伝統工芸展 入選
平成 26 年 第 2 回 陶美展 入選
平成 27 年 第 44 回 日本伝統工芸近畿展 新人奨励賞、第 62 回 日本伝統工芸展 入選
平成 28 年 第 27 回 秀明文化基金賞
平成 29 年 第 5 回 陶美展 入選
平成 30 年 現代形の陶芸 萩大賞Ⅳ 入選、第 65 回 日本伝統工芸展 入選
第 3 回 日本陶磁協会奨励賞 関西展 入選
令和 2 年 第 67 回 日本伝統工芸展 入選
日本工芸会正会員

信楽茶碗
φ15.8×H8.0cm



奥田陶生

Okuda Suelo

絶対的不動心で新たなる時へ

昭和 41 年 滋賀県信楽町生まれ
昭和 62 年 京都府立陶工職業訓練校 成形科 修了
平成 6 年 ギャラリー陶園（信楽）個展
平成 18 年 ギャラリー陶園（信楽）個展
平成 25 年 ギャラリー陶園（信楽）個展
平成 30 年 ギャラリー悠（静岡）個展
令和 元年 通のうつわ五人展（織部、名古屋）
第 30 回 秀明文化基金賞
令和 2 年 第 30 回 秀明文化基金賞 受賞記念展（ギャラリー陶園、信楽）
その他、関西各地でグループ展に出展

風に立つ
φ18.0×H30.0cm



迫能弘

Sako yoshihiro

山際の仕事場、大きなコナラの木の下にシートでおおわれてねかされた信楽土。
今年はどうぐりが豊作で、シートのやぶれ目からたくさん土に入りこみました。
何か直感するものがあり、そのままねって球体にしました。
土にたくしたいのりを、焼くことで永遠の形として残そうとしました。

昭和46年 奈良県桜井市三輪生まれ
平成4年 辻 清明氏に師事 やきものを志す
平成7年 石川県立九谷焼技術研究所 卒業 信楽にて修行
平成12年 信楽にて独立
平成21年 第56回 日本伝統工芸展 入選
平成22年 穴窯築窯
平成27年 第62回 日本伝統工芸展 入選
平成29年 台湾国立台南芸術大学にてワークショップ、第64回 日本伝統工芸展 入選
平成30年 第29回 秀明文化基金賞、第3回 日本陶磁協会奨励賞 関西展 奨励賞
令和2年 第67回 日本伝統工芸展 入選、日本工芸会 正会員 認定

信楽土球
φ18.0×H19.0cm



小牧鉄平

Komaki Teppei

古代想起を模索し表現する。

昭和46年 茨城県生まれ
平成6年 京都精華大学 陶芸専攻科 卒業 信楽に移り製陶会社勤務
平成15年 高島屋京都店美術工芸サロンにて個展 (同、平成19年)
平成17年 信楽町多羅尾に移り独立 一基目の穴窯を築窯
平成18年 日本伝統工芸近畿展 入選 以降、入選12回
平成21年 第23回 萬古陶磁器コンペ準グランプリ
平成22年 第4回 現代茶陶展 入選
平成23年 二基目の半地下式穴窯を築窯
日本伝統工芸近畿展 新人奨励賞、第22回 秀明文化基金賞
陶美展 奨励賞 21入選、第67回 日本伝統工芸展 入選

炭化幾化文彩色器
φ14.2×H10.2cm



高橋楽斎

Takahashi Rakusai

朝の散歩から一日が始まります。
その風景を作品にと思い造りました。

昭和 29 年 滋賀県信楽町生まれ
昭和 50 年 滋賀県立信楽窯業試験場 卒業
昭和 52 年 荒川豊蔵先生のもとに互窯会結成
平成 4 年 柿傳ギャラリーにて個展 (9 回)
以降、日本橋三越本店、福岡三越、大阪高島屋、JR 名古屋高島屋、京都高島屋、山口井筒屋にて個展
平成 22 年 五代 高橋楽斎 襲名
令和 3 年 「信楽に生きる 高橋楽斎 高橋美子 田尾 晃 三人展」(柿傳ギャラリー)

信楽花入

W15.0×D7.5×H26.5cm



篠原 希

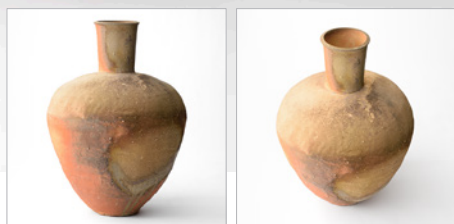
Shinohara Nozomu

この茶碗の土は荒い信楽の土で、手びねりも、ろくろでも成形できないので、
固まりにするためたたいて、掘りぬき、外は切り出して、土そのものを茶碗としました。

昭和 47 年 大阪府生まれ
平成 3 年 信楽 古谷信男氏に師事
平成 10 年 信楽窯業技術試験場 釉薬科 修了
平成 11 年 信楽町黄瀬にて独立作陶
平成 16 年 伊賀に新たに穴窯を築く
平成 19 年 信楽焼伝統工芸士に認定される
平成 24 年 第 23 回 秀明文化基金賞
平成 26 年 講談社モーニング連載「へうげもの」破れ登場回での作画協力
平成 29 年 アメリカ ヘイスタック (MI) ベンランド (NC) での制作 (アメリカ) シーグロブ訪問 (NC)
令和 元年 Stanford University, Utah State University にて WS とトレインキルン窯焚きに参加
日本伝統工芸近畿展 入選など ほか各地でグループ展など多数

シノギ茶碗

φ15.5×H9.5cm



谷 穹

TANI Q

信楽という「意識」を新たに構築してゆくうちに
長い長い長い道の一端に立っていた
東の彼岸を経由する円環の湿った道
西の果てへつながる乾いた道
美意識を証明する技術は時間を越えてここに在る

昭和 52 年 滋賀県生まれ
平成 19 年 双胴式穴窯築窯
平成 24 年 単室式穴窯築窯
平成 26 年 信楽大壺がポートランド美術館（アメリカ）に収蔵される
平成 27 年 「ロローロロ」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）個展
「これからの、未来の途中ー美術・工芸・デザインの新鋭 11 人展」
京都工芸繊維大学 美術工芸資料館
令和 元年 「Air」NOTA_SHOP（滋賀）個展、「火色」断片（京都）個展
令和 2 年 「健在する日本の陶芸ー不如意の先へー」益子陶芸美術館（栃木）
令和 3 年 「No Man's Landー陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先ー」兵庫陶芸美術館（兵庫）

信楽 長頸壺
φ46.2×H65.0cm



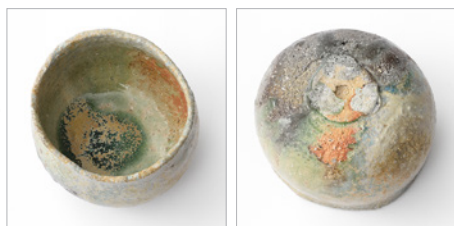
高間智子

Takama Tomoko

『花』と『華』
想いを重ねあらわしていく

平成 17 年 大阪芸術大学大学院 芸術制作研究科 修士課程造形表現 修了
平成 19 年 京都高島屋 6 階工芸サロンにて個展（平成 26 年、29 年、令和 2 年）
平成 23 年 滋賀県立陶芸の森スタジオアーティスト、大阪高島屋 6 階 NEXT ギャラリー（平成 25 年）
平成 25 年 新時代の「やきもの」への挑戦！あれもやきものこれもやきもの（滋賀県立陶芸の森）
平成 26 年 日本伝統工芸近畿展 新人奨励賞、第 25 回 秀明文化基金賞
平成 29 年 アートフェア東京 2017（東京国際フォーラム）、華やぎの陶（銀座和光ホール）
平成 30 年 第 3 回 日本陶磁協会奨励賞 関西展 入選
令和 3 年 「びわ湖・アーティスト・みんぐる」（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール）
その他個展、企画展多数

花想華（かそうか）
φ18.5×H19.0cm



古谷和也

Furutani Kazuya

「普遍的な美を追求する事」
「新たな美を追求する事」
それが私の一つのテーマでもあります。

昭和 51 年 滋賀県信楽町生まれ
平成 10 年 京都府立陶工技術専門学校 卒業 父、古谷道生に師事
平成 14 年 穴窯築窯 (以降 4 基築窯)
平成 15 年 日本伝統工芸近畿展 入選 (以降 12 回入選)
池袋東武百貨店にて初個展 (以降平成 12 年迄毎年個展)
平成 21 年 阿曾美術にて個展 (以降隔年個展)
平成 25 年 名古屋栄三越にて個展 (以降隔年個展)
平成 26 年 大阪高島屋にて個展 (以降隔年個展)
平成 27 年 第 26 回 秀明文化基金賞
令和 元年 日本伝統工芸近畿展 新人奨励賞
令和 3 年 日本橋三越本店にて個展

信楽窯変茶盃
φ12.3×H9.0cm



津守愛香

Tsumori Aico

我が家にも猫が2匹居ります
すっかりおじいさんおばあさん猫ですが
ふくふくとしてかわいらしいです。

昭和 54 年 滋賀県生まれ
平成 14 年 京都市立芸術大学 卒業
朝日陶芸展 入選 (以後、平成 15、17、18 年)
平成 15 年 女流陶芸展 新人賞
平成 19 年 長三賞陶芸ビエンナーレ 奨励賞
平成 23 年 滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー「津守愛香-ちょっとシニカルでゆかいな仲間たち」
平成 27 年 第 6 回 菊池ビエンナーレ 優秀賞
平成 29 年 平成 28 年度平和堂財団芸術奨励賞、第 28 回 秀明文化基金賞、第 7 回 菊池ビエンナーレ 優秀賞
平成 30 年 第 43 回 滋賀県文化奨励賞
令和 元年 「美の予感 2019-∞ directions-」(高島屋 東京、大阪、京都、名古屋 巡回)

猫童女坐像
W19.5×D12.2×H25.5cm

新型コロナウイルス感染拡大防止策

ご来廊される皆様に、弊廊でのひとときをより安心してお楽しみいただけますよう、下記の新型コロナウイルス感染拡大防止策を実施しております。恐れ入りますが、お客様のご理解とご協力を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

1 大切なお客様へのお願い

- ・弊廊入口とビル入口に、アルコール消毒液を設置しております。ご来廊の際は、恐縮ですが、手指の消毒をお願い申し上げます。
- ・お出かけの際は、マスクのご着用をお願い申し上げます。
- ・現在、発熱がある場合や体調がすぐれない方は、申し訳ありませんが、ご来廊を見合わせて頂きますよう、お願い申し上げます。
- ・過去2週間以内に、発熱や風邪で受診や服薬等をした方、および海外への訪問歴のある方は、ご来廊をお見合わせ頂きますよう、お願い申し上げます。
- ・店内の混雑緩和のため、出来る限り、少人数でのご来店をお願い申し上げます。
- ・コロナ禍までは、お客様にお出ししていた玉露などの呈茶のサービスを、申し訳ありませんが、当面の間、控えさせていただきます。

2 弊廊として取り組んでいる事

- ① 高機能換気システム「ロスナイ」
弊廊に高機能換気システム「ロスナイ」（三菱電機製）を令和3年1月6日に3基、導入致しました。この新しく強力な換気設備により、15～20分に一回は、弊廊内の全ての空気が入れ替わる事になります。加えて、入ロドアは常時開放し、一層の換気に務めております。
- ② 二酸化炭素濃度計
カウンター上に、令和3年4月2日より二酸化炭素濃度計を新設致しました。概ね、弊廊の二酸化炭素濃度計は400～480ppmを指し示しています。外気の二酸化炭素濃度は415～450ppmですので、ほぼ街中と同程度の空気が弊廊内に満ちています。どうか安心して弊廊での一時をお楽しみ頂ければと存じます。
- ③ サーモグラフィー
ご来廊されるお客様用のサーモグラフィーを令和3年5月12日に新設致しました。サーモグラフィーは、弊廊の入口右手の壁面に設置していますので、恐れながら、ご来廊の際は検温のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。誠に恐縮ですが、37.5度以上のお客様のご入場はお控え頂いております。どうかご理解を賜ればと存じます。
- ④ 消毒用アルコール
手指消毒用のアルコールは、資生堂 SHISEIDO さんの消毒液を使用しています。手に優しい保湿成分配合との事で、皆様からご好評を頂いております。
- ⑤ 日常清掃
日常清掃をより強化致します。お客様やスタッフが頻繁に手を触れる、エレベーターのボタン、テーブルと椅子、入ロドアとトイレの取っ手、筆・ペンなどのアルコール除菌を営業中にも定期的に行います。
- ⑥ 入場制限
弊廊内が多くのお客様で混雑し、密になると判断すれば、弊廊への入場制限をお願いする場合があります。
- ⑦ スタッフの体調管理と PCR 検査
弊廊スタッフはマスクを着用し、検温や体調管理、アルコールによる手指消毒を徹底して、接客に務めさせていただきます。令和3年11月15日、スタッフ全員のPCR検査を行い、全員、問題ありませんでした。なお、今後も月に1回、PCR検査を実施してまいります。

コロナ禍の影響で、会期と営業時間の変更や、オンライン展示のみの可能性もございます。
お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。

信楽一土の賦十二人展Ⅲ 祈りの系譜

会 期 令和4年1月23日(日)～29日(土)

会期中無休

開 廊 時 間 11:00 ～ 19:00

※ 最終日の1月29日(土)は17:00まで

出 品 作 家 青木寿美子 1月29日(土)
[在廊予定日] 大西左朗 1月23日(日)
奥田陶生 1月27日(木)～29日(土)
神崎秀策 1月26日(水)～27日(木)
小牧鉄平 1月27日(木)
迫 能弘 1月23日(日)
篠原 希 1月25日(火)～26日(水)
高橋楽斎 1月28日(金)～29日(土)
高間智子 1月29日(土)
谷 穹 1月23日(日)
津守愛香 1月29日(土)
古谷和也 1月23日(日)～24日(月)
(五十音順)

※ 恐れながら、コロナ禍の影響で、変更になる可能性がございます。

会 場

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル地下2階
(JR新宿駅 中央東改札より徒歩1分)

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

MAIL gallery@kakiden.com

http://www.kakiden.com/gallery



柿傳ギャラリーHP



公式Instagram



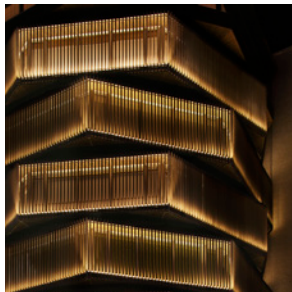
これまでの「信楽 一土の賦 十二人展」



信楽 一土の賦 十二人展
平成 31 年 3 月 15 日(金)～ 21 日(木)



信楽 一土の賦 十二人展Ⅱ
令和 3 年 5 月 7 日(金)～ 13 日(木)



新宿で大人の道草を。
柿伝ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

価格表

作家名		作品名		本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ (cm)
1	青木寿美子	茶碗・きせと [桐箱付・後日]	P4	50,000 (55,000)	φ 130×H90
2	大西左朗	信楽水指シ [桐箱付・後日]	P5	150000 (165,000)	W260×D176×H176
3	奥田陶生	風に立つ [箱無し]	P6	100,000 (110,000)	φ 180×H300
4	神崎秀策	信楽茶碗 [桐箱付・後日]	P7	40,000 (44,000)	φ 15.8×H80
5	小牧鉄平	炭化幾化文彩色器 [桐箱付・後日]	P8	60,000 (66,000)	φ 14.2×H10.2
6	迫 能弘	信楽土球 [桐箱付・後日]	P9	90,000 (99,000)	φ 180×H190
7	篠原 希	シノギ茶碗 [桐箱付・後日]	P10	100,000 (110,000)	φ 15.5×H9.5
8	高橋楽斎	信楽花入 [桐箱付・後日]	P11	150,000 (165,000)	W150×D7.5×H26.5
9	高間智子	花想華 (かそうか) [桐箱付・後日]	P12	120,000 (132,000)	φ 18.5×H19.0
10	谷 穹	信楽 長頸壺 [箱無し]	P13	600,000 (660,000)	φ 46.2×H65.0
11	津守愛香	猫童女坐像 [箱無し]	P14	160,000 (176,000)	W19.5×D12.2×H25.5
12	古谷和也	信楽窯変茶盃 [桐箱付・後日]	P15	150,000 (165,000)	φ 12.3×H9.0



160 -
0022

東京都新宿区新宿 3 - 37 - 11

柿ダマヤ
KAKIDEN GALLERY